

平成28年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について

津山市立林田小学校

教育目標(めざす児童生徒像)

- 豊かな心を持ち、主体的に生きる子どもを育てる
- やさしく
 - かしこく
 - たくましく

今年度の指導の重点

- 自己肯定感と人権尊重の精神の育成
- 基本的生活習慣の定着と健康安全教育の推進
- 基礎基本の充実と問題解決能力の育成
- 創造的建設的な自治活動能力の育成

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

《全国学力状況調査》

- 国語Aについては、県平均と比べると正答率が高い。算数Aについては、県平均を下回るが、昨年や一昨年より差は小さくなってきている。国語A・B、算数A・Bともに、県平均と比べると無解答率は低い。
- 国語Bは県平均並み、算数Bは県平均と比べると正答率は低い。特に、記述式の問題形式の正答率が低い。

《国語について》

- 「漢字の読み」:「むだを省く」本校93.2%(県83.6%)、「ローマ字を書く」:「りんご」本校65.9%(県51.5%)、「登場人物の人物像を捉える」:本校70.5%(県64.7%)で県平均をかなり上回っている。
- 「自分の考えを明確にしながら読む」:本校45.5%(県53.8%)、「話の展開に沿って質問する」:本校43.2%(県51.7%)、「表を基に自分の考えを書く」:本校59.1%(県62.8%)で正答率が低く、県平均を下回っている。

《算数について》

- A・Bともに、正答率は県平均を下回るが、県平均との差は過去4年間で年々縮まってきている。
- 小数の除法、割合、単位量当たりの設問で正答率が低い。「 $\square \div 0.8$ の商の大きさ」本校45.5%(県67.6%)、「百分率を用いた図に表す」本校38.6%(県44.5%)、「学校ごとの1人当たりの本の貸出冊数を求める」本校36.4%(県46.6%)
- 正答率の分布は、上位層が少なく、中位層・下位層が多い。

《県学力状況調査》

- 国語で県平均を上回り、他教科の県平均との差も過去3年間で一番小さくなっている。
- 基礎より活用に課題が見られる。(社会46.2%(県52.2%)、数学44.5%(県48.3%)

【学習状況調査の結果】

《学習について》

- 授業の予習・復習をしている児童が、県平均に比べてかなり多い。
- 「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しい」と回答している児童が少ない。
- 「国語が好き」、「総合が好き」と回答した児童は多いが、「算数が好き」と回答した児童は少ない。
- 平日に1時間以上家庭学習をしている児童の割合が多い。
- 「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか」の肯定的回答が低い。

《読書について》

- 「読書が好き」と回答した児童や図書室・図書館を利用する頻度が高い児童は多いが、普段の読書時間は少ない。
- 新聞を読んでいる児童の割合が低い。

《生活習慣について》

- 地域の行事に参加している児童の割合は高いが、地域や社会問題への関心がある児童の割合は低い。
- 自己肯定感、達成感、挑戦する気持ちを持っている児童が多い。
- 「あいさつができています」と感じている児童は、県平均と比べてやや低い。
- 平日に2時間以上テレビ等を視聴する児童の割合がかなり多い。

成果と課題

1. 基礎基本の定着

- 国語・算数ともに、平均正答率が昨年度より改善し、無解答率は県平均を下回った。特に、国語Aでは県平均を上回った。
- 「考えを広げたり深めたりする」と回答した児童の割合が県平均を上回った。
- 国語・算数ともに文章で解答する問題に対して無解答率が高い。
- 「小数の加減乗除」について、昨年度と同様に課題が見られる。

2. 放課後補充学習

- 高学年の希望者を対象に、前学年の算数を中心に取り組んできており、昨年度より平均正答率が上がっている。
- 「国語が好き」と回答した児童より、「算数が好き」と回答した児童の割合が低い。

3. くらしを見つめる取組

- PTAと「親子でチャレンジ」に取り組んでおり、家庭学習についての項目で肯定的回答が多くなってきた。しかし、あいさつや読書時間について肯定的回答は少なかった。

課題に対応した改善方法

1. 基礎基本の定着

- 当該学年までに配当されている漢字を、ドリルや問題データベースを利用して正しく習得させる。
- 小数や分数を含む四則計算は、調査からわかるつまづきを考慮した上で繰り返し指導を行う。
- 算数の授業を少人数授業やT.Tで行い、きめ細かい指導を行う。

2. 放課後補充学習の充実

- 算数の基礎的な内容の定着のため、高学年全員を対象に放課後補充学習を行う。教材は問題データベースを活用し、前学年の単元の中からつまづきが見られるものも考慮しながら偏りがないよう取り組む。また、指導は全教員で行う。

3. くらしを見つめる取組

- 家庭学習の習慣化やテレビ・動画等の視聴時間を減らすため、引き続き「親子でチャレンジ」に取り組み、家庭への啓発を図る。また、委員会担当を中心にあいさつ運動や読書週間を充実させる。

4. 校内研修の充実

- 研修体制を、国語部会、算数部会、学びの基盤づくり部会の3部会とし、各部会で調査結果を踏まえた取組を考え、授業づくりに取り組む。

取組の検証方法及び検証時期(2学期末及び年度末)

1. 基礎基本の定着

- 4年、5年に学力定着状況調査たしかめ実施テストを実施(11月中旬)

2. 放課後補充学習の充実

- 5年、6年につまづきを考慮したたしかめテストを実施(学期末)

3. くらしを見つめる取組

- 「親子でチャレンジ1週間」のチャレンジ(学期ごと)

4. 校内研修の充実

- 児童へのアンケートの実施(学期ごと)
- 授業評価シートの活用(学期ごと)

各校の具体的な達成目標(数値目標等)

- 国語A・B、算数Aの平均正答率で県平均を上回る。
- 算数A・Bで上位層の割合を県平均レベルに引き上げる。
- 「各教科の勉強が好き」、「各教科の授業の内容がよくわかる」と回答する児童の割合を県平均以上にする。
- 家庭学習について、「休日1時間未満」の児童を県平均レベルまで減らす。
- 5・6年生で算数科前学年までの内容の学期末たしかめテストにおいて、平均正答率を85%以上にする。